

鶺鴒渡川原人形

大石文子氏製作



藤娘



▲ほていさま



▼花咲じいさん



舞女



▲桃太郎とおじいさん、おばあさん



町娘



虎

参考出展

福岡 津屋崎人形

松ヶ岡開墾記念館蔵



▲牛若丸と弁慶

酒田で作られた土人形

広田人形

酒田市落野目

昭和22年鈴木瓦工場 鈴木兵吉
が昭和44年まで製作



▲扇舞

▲三番叟



▲神功皇后と武内宿弥

出町人形

酒田市旧出町(日吉町)
酒田出町で作られたもの
製作者は小野雲山
年代は不明

土人形づくりに使われた「型」



土型

明治23年に初代大石助
右衛門が製作した土型

木型

江戸時代に使われた木型
文政4年(1821)のもの



個人蔵



原形と土型(牛若丸)

原形から土の「型」をとる

土人形原形の見本人形

土人形の原形を作るための
見本人形



▲原形

▲土型

第101回
企画展示

くらしと人形展

～鶺鴒渡川原人形を中心に～



桃太郎の宝引き 大石定佑氏製作

開催期間 平成10年7月3日(金)～9月15日(火)

開館時間 午前9時～午後4時30分

入館料 大人100円 児童・生徒50円
65歳以上の方と身体障害者の方は無料

酒田市立資料館

酒田市一番町8-16 TEL(0234)24-6544

開催にあたって

土人形の歴史は、古くは縄文時代の土偶にまでさかのぼりますが、近世になり江戸時代末期から明治時代に一般の人々の為に多く作られるようになりました。京都の伏見が中心でしたが、のちに全国各地でも作られるようになり、京都から遠く離れた東北地方には他にない優れた美しい人形があるとされています。東北の地で、東北の人の心に咲いた野の花にもたとえられています。

この度、大石氏の全面的なご協力によりこの企画展を開催することができました。近年日本の土人形が持つ美が改めて認識されている現在、かつて人々の生活の中から必要とされて生まれた土人形から人々の「願い」「祈り」「励まし」「喜び」「逞しさ」「思いやり」、そして日々愛らしい人形を見ることで得られる心の安らぎを製作者やかかつて人形を求めた人々の心情に立って鑑賞していただき、郷土の伝統文化へのご理解をより一層深めて下さいますようお願いいたします。

この企画展が大石氏、致道博物館その他多くの方々のご協力により開催できましたことにつき厚く御礼申し上げます。

鵜渡川原人形の沿革

酒田で土人形が作られたのは、大石家が明治の初めごろ、鋳物製造のかたわら余技として土人形を作ったのがはじまりとされている。

大石家の先祖は鍋吹屋と呼ばれ、通称鍋屋の屋号で、新井田川のほとり山居稲荷の附近に、鋳物工場を運営する鋳物師であった。

鋳物づくりは、初代とされている大石助右衛門から始められたといわれているので、江戸末期頃の創業と考えられる。二代目助蔵のとき、山居町に米蔵（山居倉庫）が建設されることになり、大石一家は明治25年の秋ごろ工場とともに、山居からいまの亀ヶ崎に移転した。

このころ、助右衛門の次男孝之助が分家するようになり、三男の木山周蔵と、大石本家が経営する鉄工場に勤めるかたわら、鋳物づくりの器用さを生かして、原型づくりをも手がけた。

大石鉄工場は鋳物製作のほか、土人形づくりにも積極的に取り組み、居住地である当時の鵜渡川原村にちなんで「鵜渡川原人形」として売り出された。

土人形づくりは、明治いらい本・分家とともに受け継がれ、素朴な土のぬくもりとともに、くらしの中に息づいた手づくりの土人形として親しまれた鵜渡川原人形は、分家筋の大石文子さんが平成3年に他界し、本家の四代目大石定佑さんも、平成7年に製作を中止した。

大石定佑・やゑ氏夫妻製作

鵜渡川原人形



おけさ踊り



春駒



舌切り雀



牛若丸と弁慶



高砂



子守り女



安寿姫と厨子王



太鼓打ち



安来踊り



日本一桃太郎



因幡の白兔



熊乗り金時



舞女



人形抱き少女



義経八艘飛び



鯉抱き金時



八幡太郎義家



鯛乗りエビス



汐汲み